

品川区水とみどりの基本計画・行動計画  
第2回改定検討委員会 議事概要

日時：令和2年11月16日 午後14時～  
場所：中小企業センター 3階 中会議室

1. 開会
2. 議事
  - (1) 第1回改定検討委員会、現地視察会、実施報告
  - (2) 品川区の水とみどりの特徴・課題・施策体系の方向性について
  - (3) 今後のスケジュール
5. 閉会

【議題（1）：第1回改定検討委員会、現地視察会、実施報告】

- ・ 第1回改定検討委員会及び現地視察会実施報告等については、請求があった場合、公開されることになる。表記や内容が異なっている部分があれば公開請求を認めてもらいたいかどうか。（島田委員）
  - 異議なし。

【議題（2）：品川区の水とみどりの特徴・課題・施策体系の方向性について】

- ・ 民有地の再開発によって樹木が減っている現状がある。保存樹木が含まれたエリアが再開発される際、保存樹木を残すことによって再開発側が得られるメリット（容積率アップ等）はあるか。（前田委員）
  - 容積率アップ等のインセンティブを付与するような施策はなく、「できるだけ保存樹木を残せないか」とお願いすることはできるが、強制力は伴わない。区が行なっていることとしては、開発事業が実施される際に公共的空間を生み出すような指導や、3年に1度保存樹木の剪定を手伝うことなどであり、これらによって、まちなかのみどりの総量が増えたり、新しく保存樹木に指定したいという要望がある。（事務局）
- ・ 生垣助成はあるか。（島田委員）
  - 生垣助成、屋上緑化助成がある。（事務局）
- ・ 再開発事業者がそれぞれ異なっている現状があるため、「まち全体のコーディネート」が非常に重要であると感じる。再開発のまちづくりの中で、「品川らしさ」を活かしていくために、住民などができないハードの部分で、行政に動いてもらいたい。（綱嶋委員）
- ・ 再開発において、都が認可するものと区が認可するものが分かれているはずである。都

と区でそれぞれ何を認可しているのか、整理してほしい。また、緑化に対する助成制度も整理してほしい。(小野委員)

- ・ みどりが、どこで・なぜ減ったのか、増えたのか、更に詳細に分析してほしい。(再開発でみどりが減ったところ、増えたところ。保存樹木がどれだけ減ったのか、増えたのか。その理由等。) また、現行計画がどれほど効力を発揮しているのかという情報についても補足してほしい。(村上委員)
- ・ いかにもどりの「質」をよくしていくかを検討していくためのバックデータが必要である。(島田委員)
- ・ 西品川の宅地分譲について、区で公園にするような動き等はなかったのか。(小野委員)
  - 土地情報が入ってきたときには、既に分譲会社が決定していた。(事務局)
  - 民間のみどりを守る術がないということになる。品川区では、民間の土地を積極的に買うような動きはないのか。(小野委員)
  - 木造密集地域については、公園用地をはじめとした事業用地を買う動きはある。西品川の例のように、区としての重要地域にはなく、狭小住宅に細かく割られた土地については、区として動くことが難しいのが現状である。(事務局)
  - いかにも民有の樹林地や緑地の保全を行っていくかが非常に重要である。現行の施策で減っていくばかりであれば、別の施策を検討する必要がある。(島田委員)
- ・ 小学校は敷地が大きいので、接道部、壁面、フェンス類などを緑化してはどうか。(近藤委員)
- ・ 大崎では児童や地域の人たちと一緒に、花の植栽を行なっている。現状として、学童クラブの子どもたちは参加してくれるが、学校としては関与しなかったり、保育園長が変わると参加が途絶えてしまうなどの課題がある。横の連携を強めたり、活動の継続性を保つことに関しては民間だけでは難しいため、行政等の役割を強めてほしい。また、再開発事業を実施する際に、事業者単独ではなく、地域の声を聞いてくれる仕組みづくりや、行政指導の強化などが重要であると考えている。(綱嶋委員)
  - 「エリアマネジメント」という考え方が重要である。みどりや水の維持管理等には、地元住民だけ、行政支援だけでは不足しているため、それぞれの間を繋ぐような組織(まちづくり会社等)が入ることが求められているのではないかと。行政・大学・地域企業が連携し、そこに地域全体がついていくような海外事例もあるため、縦ではなく横割りでマネジメントを考えていく必要がある。(高木委員)
  - 参考になる意見である。行政としてはもう少し柔軟に検討を行い、今回の計画では、ケーススタディのような形で方向性を出せればよいのではないかと。(島田委員)
- ・ 平成26年から令和元年までのみどりの実態調査で、屋上緑地の箇所数が大幅に減少している理由は何があるのか。(島田委員)
  - 屋上緑化の助成を行っているが、数年経ち、維持するのが負担になってきている現状がある。大抵は新しい建物で屋上緑化を始める方が多いが、その維持が中々され

ず、一度増えた箇所数が減少してきたという理由がある。面積については増加しており、これは屋上緑化を伴う大規模な建築が多かった結果である。今後、いかに長く屋上緑化を維持管理していくか、ということが課題である。(事務局)

→ 面積がいくら増えても、質が伴わなければいけない。いかに維持管理し、区民の人たちも近づいて見ることができるのか等を計画の提案の中で示していけたらいいのではないかと考える。また、公開空地でデッドスペースになっているようなところを有効活用していけば、使える場所は非常に多くあるはずである。(綱嶋委員)

・ 区内の川や運河について、区として川底の浚渫はしているのか、また、生活排水が直接流れ込むということはないのか。(前田委員)

→ 浚渫については、品川区でも定期的に行なっており、大規模なものについては東京都が行なっている。また、目黒区が立ち上げた目黒川の浄化委員会に品川区も入っており、目黒川の川底の汚泥に高濃度酸素水を送る計画を進めている。生活排水については、一定量の降雨があると汚水の混ざった雨水が川に流れてしまう現状がある。東京都では、汚水をできるだけ流さないよう貯留施設の稼働に向けて動いている。(事務局)

→ 雨水と汚水を完全に分離させる計画はあるか。(前田委員)

→ そのような計画は特にない。(事務局)

・ 品川区は水際のライン(境界線)が非常に長いのではないかと。また、目黒川、東京湾、運河など様々な水辺を有し、それぞれの性格が異なっている。性格に応じた整備の仕方を検討していくのがよいのではないかと。(近藤委員)

→ 性格を特徴づけ、それぞれを船で結ぶというのが品川らしさの一つではないかと。(高木委員)

→ 船から水際のラインを見るときは非常に重要であり、それによって水際の風景も綺麗になる。品川区は船を所有しているか。(近藤委員)

→ 小型ボートを所有しており、災害時や橋の点検等に使用している。(事務局)

→ 橋の点検などのバックヤードツアーのようなものがあれば面白いのではないかと。(近藤委員)

→ 水族館からの定期船はなぜなくなったのか。(綱嶋委員)

→ 東京都観光汽船が運行していたが、乗船客が少なく、運休という扱いになっている。(前田委員)

→ 例えば花海道に船着場をつくり、そこから水族館まで歩いてもらうようなこともできたのではないかと。船に乗る・船から見る・船から降りて歩く、といったことをトータル的に考えていくべきである。(綱嶋委員)

・ 昔の運河というのは、生活の裏側にあり、ゴミ捨て場のようなイメージが長く続いていた。これを計画などで、運河側に出入り口(できれば正面玄関)をつくるように指導できれば、企業も運河側を綺麗にしようという発想になるのではないかと。(前田委員)

- ・ 「歩く」というのは非常に重要で、よい施設やプログラムをつないだり、インフォメーションを更に行なったりして、水辺やみどりの中を歩いてもらう。アイデアをどんどん入れて、せっかくあるものを使っていかなくてはいけないのではないか。(高木委員)
  - 資源を多く有しているが、活かしきれていない現状がある。仕組みの問題等もあると思うが、施策的な提案も含めて、今後検討していきたい。(島田委員)
  - この現状を解決するためには、横串を刺すようなことが重要になると思うが、自治体だけではやりづらいのではないか。例えば公園緑地などを一つの組織に一括で管理してもらえれば、様々な組織が資源の活用方法等を考えて積極的に提案してくれる。今後は管理の方にお金を出して整備していく方がいいのではないか。(村上委員)
  - 今まではボランティアに任せていたため、責任の所在が不明瞭で、継続的な仕組みを作ることができていない。先ほど話に出た「まちづくり会社」のようなものを置き、トータルの観点で考えていく必要がある。(綱嶋委員)
- ・ 基本方針自体は前回でも議論され、大概正しいと思われるが、具体的な行動に移すところは調整がある。これからの計画はどう評価するか、どこまでターゲットにするか等は、計画づくりの中で議論できるとよい。(村上委員)
- ・ 基本方針の中に、できれば「質」について入れてほしい。今までは「量」を追いかけたと思うが、例えば量が減ったとしても、区民が憩えるような水辺やみどりを大事にすべきではないか。(前田委員)
- 本来は基本方針に「品川らしさ」や「暮らしをつくる」などの話が出てくるので、ここで出てくる「質」をいかに具体化させるのが重要になる。(村上委員)
- ・ 基本方針には「地球温暖化」「地球環境問題への対処」などの文言は入れるべきだと思うが、委員会で検討したい。(村上委員)
- ・ 現在、1人当たり公園面積はいくつか。(小野委員)
- 区立公園条例では5㎡を目標値としており、品川区では、都立公園等も入れて3.4㎡ほどである。(事務局)
- 今後、この数値は上げていくのか。(小野委員)
- 公園がない町会も30ほどあるため、そういったところには積極的に公園を作っていきたい。しかし、公園をつくるほどの土地が確保できないのも現状としてある。今後は5㎡を見直さなければいけないのか、もしくは5㎡を目指していくのかというところは検討しなくてはならない課題である。(事務局)
- 1人当たり公園面積等に関して、八潮地区が非常に大きいということであった。地区によって数値がかなり異なると思われるため、八潮のような地区、大崎のように再開発が期待できる地区、木造密集地区など、それぞれの地区ごとに求めるゾーンなどが議論できるといいのではないか。(村上委員)
- ・ 本日の委員会では、戦略・戦術の話が多く出た。これをボトムアップ的に考えていけば

施策に結びついていくはずである。また、現行計画の自己点検がしっかりできていないように思われるが、みどりについての庁内連絡会議はあるか。(島田委員)

→ みどりに特化したものはないが、まちづくり委員会全体で、部を超えた会議体のようなものはある。(事務局)

→ いずれ、みどりや環境に特化した会議体が必要になるかと思う。また、各課ヒアリングの結果で、生物多様性に関しては7事業中6事業が「実施予定なし」となっている。そもそもどこが実施するのかというところから議論する必要があるため、連携を考えていくなど、検討が必要である。また、全84事業は多すぎるため、整理すべきところは整理した方がよい。(島田委員)

- ・ 「品川らしさ」や地域別の特徴を、しっかりと計画の中で位置づける必要があると感じた。また、現在学校の改築を積極的に行っており、学校の中でのみどりや公共施設のみどりというのは、単体でというよりはその周辺に波及するように、計画の中で考えていかななくてはならない。最後に、水辺に顔を向けた計画の誘導についても検討が必要であるのではないかと感じている。(都市計画課長)
- ・ 「量」だけではなく「質」を、というのは非常に感じていたことであり、今回の計画では質をしっかりと求めていきたい。また、地域、事業者、その他の自治体等を含め、全員が取り組んでいけるような計画にした方がよいのではないかと感じている。(防災まちづくり部長)

#### 【議題(3)：今後のスケジュール】

特になし